

「明るく楽しい農業で自分らしく生きる！」



武智 咲紀 (32 歳) Uターン
(砥部町)

1 就農の動機・理由

幼い頃から農家である祖父母の姿を見て育ち、農業をやりたいという気持ちを持っていた。大学卒業後、4年間は団体職員として勤務していたが、祖父母が元気なうちに一緒に農作業をしながら、次は自分が畑を守り残していきたいと思い、就農を決意した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和2年)	現在の経営 (令和7年)	将来の経営 (令和10年)
労働力	女3人 (本人、母、祖母) 男1人(祖父)	女2人 (本人、母) 男1人(父)	女2人 (本人、母) 男1人(父)
経営耕地	畑 45a	畑 50a	畑 50a
経営内容	愛果28号(施設) 4a 甘平 5a 不知火 4a 伊予柑 25a 切花(施設) 7a	愛果28号(施設) 4a 甘平 10a 不知火 4a 伊予柑 25a 切花(施設) 7a	愛果28号(施設) 4a 甘平 10a 不知火 4a 伊予柑 25a 切花(施設) 7a

○農業用施設

農業用倉庫 1棟
A Pハウス 2棟

○主要農業機械

動力噴霧器 1台
軽トラック 2台
暖房機 1台
運搬車 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴
出身地 愛媛県砥部町
職歴 団体勤務
就農研修歴 なし
就農年月 令和2年4月

(2) 就農時の思い

祖父母から受け継いだかんきつは、老木化が進んでいたため、改植を進めながらより品質の高いものを生産していきたいと考えていた。また、荒れてしまっていた梅園をどうにかしたいと思っていたため、色んな人の助けを借り、整地して、中晩柑に改植した。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

祖父母から日々の農作業を教えてもらいながら、県立農業大学校の農業担い手育成塾にも通い、栽培技術の習得に努めた。また JA 講習会に積極的に参加し、先輩農家や指導員、県普及指導員に色々と教えてもらったり、わからないことを相談したりして、試行錯誤しながら技術を身に付けた。

(2) 資金の準備

親元就農のため、まとまった資金は特に必要なかった。今後は補助事業等を活用して甘平にかん水設備を導入できればと考えている。

(3) 農地・住宅の確保

親元就農のため独自の農地や住宅の確保はしていない。経営内の役割分担としては、栽培から出荷まで作業全般を担当しており、令和8年の春頃からは取引全てを自身の名義に切替える予定である。

(4) その他苦労したこと

農作業中の過酷な暑さや気温に身体が慣れるまでは、体力的にとっても大変だった。また切り花は、かん水量が品質に影響するため、その日の天候や土の状態に応じて調整が必要だが、その感覚をつかむのに苦労した。は種から花が咲くまでは約半年かかるが、自分の育てた花を見てお客さんが笑顔になる瞬間を見ると、頑張っただけよかったと感じる。

5 農業経営の特徴

中晩柑を主体とするかんきつ栽培を主軸としている。切り花はスイートピーやガーベラ等、年間を通じて様々な品目を栽培しており、自分でブーケをアレンジして直売所等に出荷している。

6 これからの夢

祖父母は高齢のため、現在では中々一緒に作業することはなくなったが、定年退職した父が昨年から一緒に農業をしている。祖父母から自身と父母へと、世代交代をして試行錯誤しながら高品質で高単価なより良いものを生産できるよう日々励みたい。また、地域の高齢化が進んでいるため、耕作できなくなった農地の受け皿となれるよう、技術の向上とともにご近所付き合いも大事にしていきたい。

7 成功したキーポイント

砥部町青年農業者協議会に加入し、仲間と情報交換したり、新規就農者お手伝い事業で、荒れていた園地の伐採や抜根を会員に手伝ってもらったりしたことはとても心強かった。また、卒業後も担い手育成塾の同期と情報交換したり、互いに手伝ったりしている。人とのつながりを大事にすることは必要不可欠だと思う。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は、体力的に大変な時もありますが、季節の移り変わりを肌で感じ、生きていることを実感できる職業だと思います。自分らしく楽しんで働くことのできる今の生活を、とても気に入っています。

○ 指導機関からのひとこと

武智さんはいつも明るく素敵な笑顔で日々農業を頑張っておられます。青年農業者協議会の活動にも熱心に取り組み、人とのつながりを大事にする誠実で明るい人柄から、自然と人が集まります。今後も地域の中心的な担い手として、益々の活躍に期待しています。

執筆機関

中予地方局農業振興課地域農業育成室
伊予農業指導班
電話番号 089-982-0477



スイートピーの管理作業